

ユーザー主体の連携支援を目指した特別支援学校コーディネーターの取り組み

— 幼稚園から小学校への移行支援を通して —

Special Needs Education Coordinator's Cooperative Support Based on the User : Focusing on Transition Support from Kindergarten to Elementary School

高田 敬子
Keiko Takada

Key Word : 特別支援学校、連携支援、就学・移行支援、保護者支援、コーディネーター

第1章 はじめに

本研究は、ユーザー主体の連携支援を目指すために必要な取り組みと手立て、特別支援学校のコーディネーターに期待される役割と資質について明らかにするために、幼稚園から小学校への移行支援に焦点を当て、それに伴う実践から検証を行っていくこととする。

第2章 問題と目的

「学校教育法施行令」の改正により、就学にあたっては保護者からの意見聴取の義務付けが新たに規定され、保護者が責任を持って子どもの支援に関する情報提供をし、連携支援を進める必要性が明らかになった。しかし、現在のところ保護者サイドから連携支援のためのノウハウについて知る機会が与えられておらず、幼稚園や学校と対等の立場で子どもの支援について話し合うことが難しい状況である。(親の会調査より)

柘植(2008)は特別支援学校のセンター的機能の支援内容が、基礎的・基本的な事項から、家族への支援などの、より実践的で複雑な課題への支援の必要性が求められるようになってきたと指摘している。

そこで、本研究では、ユーザー(保護者)主体の連携支援を目指すために、就学移行にあたって必要な取り組みと連携支援のための手立てを明らかにし、センター的機能として、特別支援学校の地域支援コーディネーターに期待される役割と資質について明らかにしていく。

第3章 方法(研究の全体像)

本研究は、幼稚園および小学校での実践、またそれに基づいた教育委員会との連携による取り組みを通して、各研究の結果を総合的に考察する。

研究実践の全体スケジュールを表1に示す。

第4章 研究実践1 就学移行の取り組み支援 及び就学支援ガイドの作成と活用

1. 基礎情報

期間: 2007年10月~2008年7月

対象: X町立B幼稚園、A小学校、A児

2. 目的

小学校生活をスムーズにスタートさせるために、幼稚園から小学校への移行にあたって必要な取り組みについて明らかにする。就学前機関・保護者・学校が、就学に向けた見通しを持ちつつ、相互に情報を得て準備していくためのしくみ(ガイド)を作成し提示する。

3. 方法

・個別の教育支援計画の策定、就学支援会議、個別指導等による就学移行の取り組みを支援する。
・就学移行の取り組み(実践)と各地の就学支援に関する資料等を基に、教育委員会との連携により「就学支援ガイド」を作成し、活用を試みる。

4. 結果

就学移行の取り組みを、具体的に進めることによって、保護者と子どもが安心感を持って小学校生活をスタートさせることができた。

実践を基に、「就学支援ガイド」を作成することにより、連携支援をするためのモデル提示を行うことができ、移行支援のための手立ての明確化ができた。

5. 考察

特別支援学校の地域支援コーディネーターが、就学移行のための取り組みを支援し、連携の在り方を具体的に提示することで、支援者の役割が明確になり、より主体的で安心感のある支援体制を築くことができた。

表1 研究実践全体スケジュール

| 年・月 対象 | 2007 | | | | | | 2008 | | | | | | | | |
|-----------|---------------------------------|---|---|----|----|----|--|---|---|---|---|---|------------------|---|----|
| | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 10 |
| B児 | X町立A小学校<1年> | | | | | | X町立A小学校<2年> | | | | | | | | |
| | アセスメント・個別支援 | | | | | | 小グループSST・保護者学習会 | | | | | | | | |
| A児 | X町立B幼稚園<年長> | | | | | | X町立A小学校<1年> | | | | | | | | |
| | 個別の教育支援計画策定 就学支援会議①② | | | | | | 小グループSST・保護者学習会 | | | | | | | | |
| | 研究実践1 | | | | | | 個別指導 | | | | | | 就学支援会議③ | | |
| | | | | | | | 「就学支援ガイド」作成 | | | | | | 就学説明会「就学支援ガイド」使用 | | |
| C児 D児 | 私立C幼稚園<年中> | | | | | | 私立C幼稚園<年長>→来春X町立D小学校に入学予定 | | | | | | | | |
| | 研究実践3 | | | | | | 保育観察・コンサルテーション 教育相談・保護者学習会「就学支援ガイド」使用 個別の教育支援計画策定・個別支援シート作成 | | | | | | | | |

*太字は本研究に関する筆者の介入

第5章 研究実践2 小学校における個別支援

(小グループSST、保護者学習会)

1. 基礎情報

期間：2008年5月～9月

対象：X町立A小学校 A児(1年)・B児(2年)
A児・B児の保護者

2. 目的

学校生活へのスムーズな適応を促すために、入学後に必要な取り組みと学童期の子どもを持つ保護者にとって必要な支援とその効果について明らかにする。

3. 方法

・小グループSST

1回45分、月2回(計8回)放課後にソーシャルスキルトレーニングを中心とした小グループ学習を実施。学習内容・様子については、毎回記録ノートに綴り、コーディネーター→担任→保護者に回覧。

・保護者学習会

1回90分、月2回(全8回)A児、B児の保護者を対象に、子どもとの関係作り、学校との連携の仕方等についての学習会を実施。第6回、第7回は次年度就学予定のC児、D児の保護者も参加。

4. 結果

小グループSSTを通して、子どもの課題や適切な支援方法が明らかになり、情報共有することで保護者と学校が共通認識して、子どもに関わることができた。保護者が学習会で、子どもや学校との関係づくりの仕方を具体的に学び、他の保護者との交流をもつことを通して、支援者の立場で主体的に関われるようになった。

た。

5. 考察

入学後の子どもと保護者のニーズを的確に捉えた支援を行うことによって、先を見据えた、より安定した移行支援を進めることができることが明らかになった。

第6章 研究実践3 幼稚園における支援

(担任への支援・保護者への支援)

1. 基礎情報

期間：2008年5月～11月

対象：私立C幼稚園 C児・D児を含む発達気になる年長児の担任、C児・D児の保護者

2. 目的

小学校に引き継ぐべき具体的な支援内容と就学前の保護者に必要な支援について明らかにする。

3. 方法

・担任への段階的コンサルテーション

・保護者への学習会や教育相談

4. 結果

段階的にコンサルテーションを進めることで、子どもへの関わりを客観的に振り返り、小学校に引き継ぐべき支援や保護者への関わり方について、教員相互で確認していくことができた。就学支援ガイドで就学までのスケジュールを知り、学習会で他の保護者の話を聞く機会を持つことによって、今後の子育てや園、学校との関係作りに見通しをもつことができた。保護者として連携支援に主体的に取り組めるようになり、就

学に対する不安軽減につながるということが明らかになった。

5. 考察

特別支援学校の地域支援コーディネーターが外部の支援者として、担任及び保護者に対して支援行うことは、客観的視点からの気づきを持たらし、園内の支援体制強化と、地域における特別支援教育体制の充実に、寄与することができるということが明らかになった。

第7章 総合考察

就学移行にあたって必要な取り組みとして、幼稚園では就学後必要と思われる支援について見極めておくこと、小学校では入学後必要と思われる支援を明確にし、共通確認しておくこと、そして保護者は子ども及び学校との関係作りを進めていくこと、また、三者による支援の情報の伝達と共有が必要である。

連携支援のために必要な手立てとして、幼稚園・保護者・学校の三者の役割の明確化、実施可能な支援情報の共有化と具体化、地域支援コーディネーターによる三者への支援が考えられる。

就学移行における地域支援コーディネーターに期待される役割として、客観的な視点で三者を有機的につなぐ役割があげられる。地域の就学システムについて熟知しており、保護者への具体的な支援のノウハウを持ってサポートしながら、幼稚園・小学校との互いの関係が良好なものになるようにフォローできる資質を必要とする。

本研究を通して得た課題として、「就学支援ガイド」の実質的な効果の検証、できるだけ早く支援ニーズに応えるための地域全体を鳥瞰した支援体制の構築、子どもの支援ニーズに対する保護者との情報共有の在り方の検討があげられる。

第8章 おわりに

ユーザー（保護者）を主体とし、保護者を含めた支援者同士が、互いに尊重し合って支え合う支援（連携支援）が行われることにより、子どもの成長を共に喜びあうことができ、成熟したより質の高い支援を提供することができる。

支援者それぞれの持ち味を、引き出して生かす働きを担う特別支援学校の地域支援コーディネーターは、地域の包括的マネージャーといえる。